

笑ってごらん

第 614 号 H. 30. 2. 20 発行

～今日のことば～

やるか、やらないかですよ、人生は。
やればそれだけのものが返ってくるし、
やらなければそのままですよ。(桑田真澄)

◇◆訃報。南さつま市にあるコワダヤの松野保男会長が逝去された。松野会長は「加世田女子高テニス部を日本一にする会」を立ち上げ、現在の「鳳凰高等学校後援会」の礎を築いてくださった。長く後援会会長として本校生の活躍に対し微に入り細に入りご支援いただいた。感謝は尽きない。今はただご冥福をお祈りするばかりである。合掌！ ◇◆本校看護学科専門課程 2 年生が 2 つの大きな試験に挑んだ。16 日（金）の鹿児島県准看護師資格試験、そして 18 日（日）の看護師国家試験である。これまでの 5 年間の学びの過程においては、眼前に立ちのぼる幾多の「壁」に涙を流したこともあったことだろう。しかし、それぞれの工夫と根性で一つひとつ乗り越え、ここまで辿り着くことができた。大きな試験を終えた今、専門課程 2 年生たちは、頑張り抜いてきた自分自身への賞賛と応援してくれた周囲への感謝に包まれていることだろう。
～．

感謝道

◇◆連日ピョンチャンオリンピックの放送に釘付けになっている。どの競技においても等しく熱い闘いが繰り広げられており、目が離せない。もちろん、日本代表選手に活躍して欲しい思いが募る訳であるが、他

国の選手であっても、これまで幾度となく世界大会などで記録を塗り替えてきている選手のプレーは「流石！」と納得せざるを得ないくらい芸術性が高い。個人的にはカーリングの静かな闘いに注目している。相手のストーンの間隙を抜く正確精緻なショット。チームメートと密に協議しながら試合展開を決め込んでいくコミュニケーション。一試合一時間くらいかかる集中戦であるが、見始めると目が離せない。一方、スピード種目においてはコマ何秒を競う世界。自身の技量をトコトンまで極め、最高のコンディションを大会本番に合わせる調整を行う。その精神力たるやただ敬服

するしかない。 ◆先日、男子フィギュアスケートで、羽生結弦選手が 2 大会連続の金メダル、宇野晶磨選手が初出場で銀メダル、との素晴らしい結果に日本中が沸きに沸いた。羽生選手は右足首の故障で滑れない期間もあったにも関わらず、先月やっと 4 回転ジャンプの挑戦したという。後日談では痛み止めを服用しての大会出場だったようだ。そして、スピードスケート女子 500m で小平奈緒選手がオリンピック記録での金メダル。小平選手は 14 日の 1,000m の銀メダルに続いての快挙。ゴール後自身のタイムを確認してのガッツポーズに胸が熱くなった。 ◆数々の競技において各国選手の活躍は挙げていけばキリがない。各国の代表になるだけでも大変なのに、オリンピックにおいては世界の頂点を目指す。そのために日々過酷な練習を重ね、数々の「犠牲」を払っている選手たち。私たちは光の当たる晴れやかな一面しか観ることができないが、その影に並々ならぬ努力が隠されていることを忘れてはならない。 ◇◆17 日（土）から鹿児島県下一周駅伝競走大会が始まっている。それぞれ地区代表の選手たちがベストな走りでタスキをつないでいく。チームのために走る選手たちによる熱い感動のドラマが展開される。今回、川辺チームに本校 2 年 2 組の海江田智紀君が選手として加わっている。大会 3 日目の昨日、7 区（8.8km 西太良～伊佐市役所）を走り、区間第 4 位となる好走で次走者にタスキをつないだ。大会期間中、あともう 1 回走るチャンスをもたらえるのかどうか今はわからないが、本校の代表として「鳳凰高校」のユニフォームで走る海江田君を応援したい。

